

タンザニアの教育SWAp

亀井里美
GRIPSセミナー
2006年1月

タンザニアの教育SWAp

教育セクター開発計画：

Education Sector Development Programme (ESDP)

- 1996年、教育セクターにおけるSWApの導入を決定
- 1997年、セクタープログラムの策定開始
- 1999年、ESDPが完成
- 2001年、ESDPを改訂
- 2002年、初等教育開発計画（PEDP）の実施開始
- 2003年、ノンフォーマル教育開発計画の実施開始
- 2004年、中等教育開発計画（SEDP）の実施開始

タンザニアの教育SWAp

初等教育開発計画：

Primary Education Development Plan (PEDP)

- 2001年7月、PEDPの正式承認。
- 2002年1月、PEDPの実施開始。
- サブセクタープログラムの第1弾。
- 2001/02年度に開始。実施5年目。
- 実施経費：1兆6,875億シリング（2001/02～2005/06）
- PEDP主管：教育文化省及び地方自治庁の2省庁。
- 運営体制：基礎教育開発委員会（BEDC）、BEDCタスクフォース、5つの作業部会。
- 上位目標：2015年までの初等教育完全普及（UPE）の達成。
- 優先課題：就学の拡大、質の向上、能力強化、人的・物的・財政資源の有効活用。

タンザニアの教育SWAp

日本/JICAの教育支援：

- 基礎教育は日本の重点支援分野
- タンザニアの教育SPは重点セクタープログラム
- 1999年～2001年、スクールマッピング・マイクロプランニングの第一フェーズ実施
- 2002年～2004年、無償による小学校施設建設
- 2002年～2004年、スクールマッピング・マイクロプランニングの第二フェーズ実施
- 1999年以降、教育分野対応の企画調査員派遣
- 2005年7月、スクールマッピング・マイクロプランニングが終了

タンザニアの教育SWAp

教育セクターの特徴：

- 政府の明確なSWAp導入政策
- 複数の教育主管省庁
- サブセクター別に開発計画（サブSP）の策定・実施
- 段階的なSWApの実践
- 支援ドナー数が最多
- 初等教育にドナー支援が集中
- 初等教育での動向が顕著
- 財政支援への移行が顕著
- 援助手続きの調和化が先行
- タンザニアの制度・手続きの活用
- ドナー協調への厳格な取り組み

タンザニアの教育SWAp

ドナーの支援形態（2004年時点）：

財政支援型：

PEDPプールファンド：アイルランド、カナダ、オランダ、ノルウェー、EU、スウェーデン、フィンランド、ベルギー、フランス

セクター財政支援：世銀（SEDPにイヤマーク）

PRBS：DfIDを始め多数

プロジェクト型：

日本/JICA（スクールマッピング・マイクロプランニング支援）、
UNICEF（女子・HIV/AIDS教育）、UNESCO（NFE教育）、
GTZ（中等教育）、ADB（NFE、中等教育、職業訓練）

タンザニアの教育SWAp

留意点：

- ESDPへの統合、補完性 ↔ パラレル支援
- ESDP実施運営体制を通じた情報の発信、意見調整
- 先方担当省庁の主体性、地方自治庁の巻き込み
- ドナーに求められる役割の変化
- 共同タスクに対する積極的な対応・貢献

タンザニアの教育SWAp

課題：

- マクロ的視点からセクター課題を捉える。
- 政府の主体性、組織・制度の機能強化を常に意識する。
- 現行の教育支援方針を再考する。
- 財政支援と人的・知的貢献を推進する。
- セクターの実施運営プロセスに積極的に参画する。
- 各種の援助スキームを有機的に応用し、柔軟な対応を図る。